

「生活する外国人」のための日本語教育について

栗又 由利子

(株) ティビィシー国際外語学院

＜取り組みを始めて＞

日本で生活する外国人は自分自身で幸せだと感じながら日本で生活を続けているのではないのでしょうか。本当に辛くて耐えられないようであれば母国に帰国するでしょう。東日本大震災の後、多くの外国の方が帰ったのはそれを如実にあらわしています。震災があっても日本に残った外国の方の中には、日本で生活することが幸せだと感じている方も多いはずです。ですから彼ら外国人と同じ立場に立って一緒に仲間になることを目的としたこの委託事業は本当に素晴らしいものであると感じています。

そしてこの取り組みをして改めてわかったことですが、幸せは誰が決めるかということです。彼らを「幸せじゃないから幸せにしたい」と思っているのは日本人の側だけではないのでしょうか？言葉がわからなくても「幸せだ」という方はたくさんいるでしょう。「何か困っていることがありますか」と聞くと、「ない」と答える方もたくさんいます。

しかし、同時に彼ら外国の方がもっとよりよい生活をするために、整備したほうがいいこともたくさんあると思います。その中の一つとして、彼ら自身が「知っておくべきこと」、「知っておいたほうがいいこと」という「情報」があると思います。一例を挙げれば、「子供の医療費助成については知らないので損をした」などの「情報弱者」の問題だと思っています。

私たちはその情報を、外国のみなさんが取得しやすい形になったらと考えました。この「情報」をわかりやすく伝えられるのは、日本語教師だろうと思っています。日本語の文法はもちろん、どう伝えるか、どう受け取られるかなどの全ての知識と経験を持っているのは日本語教師なのではないかと思っています。

外国の方も、そして日本の地域住民の方もお互いによりよい、心地よい生活をするために何ができるか、今後を考えていきたいと思っています。

「やさしい日本語地域ニュース」の取り組みについて

＜取り組み1＞やさしい日本語地域ニュースの配信

8月から毎週土曜日12:26分から3分間放送しています。この時間帯を選んだのは当初企画書で提出した予算満額を受託することが出来なかったため、毎週流すことを最優先としてFM栃木の方と予算交渉をして決めた時間帯です。外国の方が聞きやすい時間帯は今後のアンケートで調査予定です。

ニュースの選定は地域の外国の方にさせていただいています。2週間に1度会議を開いていますが、毎回違った国籍の違った立場の方に参加していただけるよう人選を行っています。

選んでいる外国の方々実際に放送したニュースを聞いていただくと、「わかりやすい」と評価していただきました。新聞や地域の広報を読むことはないが、これなら聞いてみたいと言っていました。

感想は、その方の日本語レベルによって違いがありました。誰でも聞くことができるラジオだからこそ、どんな人に向かって配信するかを考えることは大切で、今後の課題だと思っています。

さらに、この取り組みも早いもので6ヶ月。現在継続化させるべく、努力し始めました。

日本語教師として、この仕事はとても楽しいものです。普段から「わかりやすく伝える」ということは当たり前のことですが、「耳で聞いてわかりやすい」というのは、なかなか難しいものでした。また、知っていることを前提として書かれているニュースも多く、それを、全くその情報のない外国の方でもわかるようにするというのは、まだまだ研究中です。時間とお金があれば、この「情報のためのやさしい日本語」

をもっといいものにしていきたいという思いがあります。

<取り組み2>やさしい日本語地域ニュースを使った日本語講座

単に日本語の学習をするのではなく、「生活セミナー」ということで、生活に必要な情報を提供できる場になりました。

生活してるだけではなかなか得られない情報は何かを考え、また外国の方に希望を聞き、セミナーを開催しています。

一方で、日本語教育に携わったことのない日本人の方には、セミナー講師としていろいろな分野から参加してもらい、「やさしい日本語」の存在、有効性を感じてもらいたいと思っています。

外国の方からは、直接質問ができてよかったという感想がありました。

日本人からは、こんなにも外国の方が定住されているのを知らなかったという感想がありました。

★この取り組みが地域とつながっていった一例

(これについては、地元の新聞でも取り上げていただきました。記事を添付いたしました)

やさしい日本語地域ニュースにて栃木県各地のイベント情報を配信(取り組み1)

↓

イベントのニュースを使ってセミナーを開催(講師:那須どうぶつ王国支配人、アルパカ)(取り組み2)

↓

定住している外国人の存在を知った支配人から「どうぶつ王国へ招待したい」と申し出あり。

↓

外国人が代表をつとめる地域のボランティア団体に募集をしてもらう。

↓

23名の参加があり、バスを借りる(バス代参加者負担)

↓

参加者から「こんなところがあるのを知らなかった。今度は家族みんなで来たい」という声があった。企業側からは「こういったお客様層のターゲットを考えたことがなかったが、今後積極的に活動していきたい」という感想があった。

<取り組み3>やさしい日本語地域ニュースを使った教え方講座

地域ボランティアや、大学生、学校の教員等に参加してもらい、「やさしい日本語」を少しでも理解し、実際のボランティア教室、学校などで活用してもらうことを目的としています。

また、「やさしい日本語」による、対話中心のボランティア教室、「やさしい日本語」が使える地域住民ということを考えていくつもりです。

現在の歴史あるボランティア教室のみなさんに、やり方を変えていただくことは簡単なことではありません。しかし、変わっていく必要があると思います。だからといって、一企業がボランティア教室に入って、たとえ正しく、日本語の専門家として新しい方法などをお話ししても、素直に受け入れていただけないことが現状です。もちろん、こちらの実績もあるかもしれませんが、「お金をとる=悪」と思われている方も少なからずいらっしゃることは確かです。

そのような状況下、「文化庁委託事業」という大きな看板を持って、ボランティアの方々に接触し、これからの日本語教育と一緒に考えることができることは、とても意義のあることだと思います。

そして、専門家としての日本語教師の存在を知っていただくこと、協力していくことでよりよいものが作れることなどを理解していただける、またとないチャンスだと認識しております。

<最後に>

私たちはこの事業に関してまだまだ走り出したばかりであり、全て手探り、分からないことだらけです。しかし、外国の方々の協力の下、たくさんのアイデアがうまれてきました。もちろん手助けをしてくれた日本人もたくさんいますが、今私が感じているのは、「たくさんの外国の方が助けてくれた」ということです。この事業は、全て外国の方なしでは行えません。本当にありがたいと思っています。

また、今回この「やさしい日本語普及事業」について、一番理解して下さったのは、普段「日本語教育」とは縁遠い企業さんや、「日本語教育」を聞いたことのない方々でした。これは意外なことでしたが、同時に「やさしい日本語」が必ず理解してもらえるということでもあると思いました。

これからも、自由な発想のもと、いろいろな企業、団体が「生活する外国人」に注目してくれるよう努力していきたいと思えます。

「生活する日本人」と「生活する外国人」は何が違うのか。これからもじっくり考えたいと思えます。